

【特集】

まちは、人にやさしいの？

～まちかど探検団～

私たちが、ふだんにげなく歩いている道や、
 利用している乗り物、あるいはよく利用
 している施設は、障害をもつ人にとって本当に
 やさしいのでしょうか。もし、やさしくなければ、
 どこをどんなふうにしたらいいのでしょうか。
 そうした目的をもって鹿児島医療福祉専門学校の
 学生さんが、実際にアイマスクや白杖、車いすを
 使用してまちを歩き、バリアフリーの実態を
 さぐる様子取材しました。



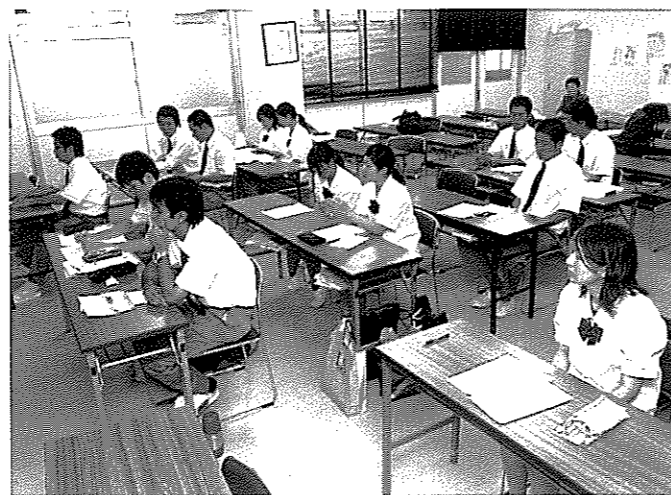
■まちかど探検団について

鹿児島医療福祉専門学校介護福祉学科の学生さんは、毎年鹿児島市内および郊外に出かけて障害者体験を行っています。障害者の立場から介助の仕方を学び、まちのバリアフリーの実態を知るのが目的です。今年も10月の学園祭での発表に先立ち、7月の初めに実施されました。5～6人で1つのグループをつくり、グループは8つあり、グループごとに調査の目的をしぼり、どこへ行くかを決めます。そして、その後は障害者、介助者、カメラマンなどの役割を分担します。

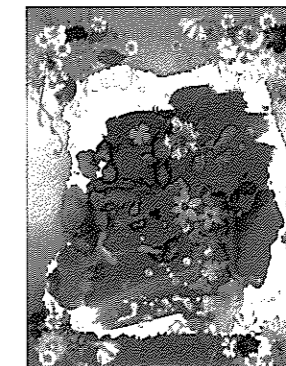
■8つのグループに分かれて障害者体験

各グループの調査の目的及び行き先は次のように決まりました。

班	目的	行き先
1	障害者の立場から見た遊楽施設でのバリアフリー化を調べ、改善点を見つける。	平川動物公園
2	車いす体験を通して障害者が感じる不満や要望を探し出す。	桜島ビジターセンター～市内のデパート
3	重複障害者（視覚障害、弱視）の体験を通して交通機関利用の際の不便な点、改善点をさぐる。	谷山駅界隈
4	視覚障害者体験を通して、公共施設、店舗などの改善点をさぐる。	鹿児島市水族館～天文館の店～県民交流センター
5	車いす体験をすることで、日常生活の不便な点を調べ改善方法を考える。	西鹿児島駅～天文館通～デパートなど
6	身体障害者体験を通じて、空港施設及び人の対応を調査し、改善点を見つけていく。	鹿児島空港
7	視覚障害者の目線で、余暇活動を体験し、問題点を探し出す。	遊園地～ボウリング場
8	障害者体験を通して、障害者にとって住み良いまちづくりを考える。	バス～西鹿児島駅～天文館界隈



表紙イラスト
濱田 和彦「作品」



あっぱ
 ヒューマンドキュメント
 野村 浩志さん PAGE 4

あっぱ通心 PAGE 6
 だれでも気軽に収穫体験 ビノキオ観光農園

バリアフリー最前線 PAGE 7
 琉球エキスプレス（大島郡）
 PBカフェ（鹿児島市小野町）

ハードルを越えて PAGE 8
 上高原 大介さん

あっぱ掲示板 PAGE 9
 平成15年度障害者スポーツ大会開催

鹿児島県からのお知らせ

【特集】
 まちは、人にやさしいの？
 ～まちかど探検団～

PAGE 1

表紙イラスト—濱田 和彦さん プロフィール

1956年市来町生まれ。大阪芸術大学卒業後はグラフィックデザイナーとして広告の仕事に携わってきたが、仕事中に脳幹出血で倒れて入院。病状が安定した段階でリハビリを行った。機能回復、職能、日常生活訓練をめざし鹿児島県身体障害者自立支援センターに入所する。もう1回自分の好きな絵を描きたいと思っている。



デパート内の車いす専用連絡通路

■デパート内を車いすで移動し、通路の幅や段差、車いすの目線で商品が見やすいかどうか。

■車いすによる階段昇降の介助および、駅員の対応を調べる。

■車いす用エスカレーターの使用しやすさと安全性を調べる。

■駅構内における障害者用トイレの設置状況、切符を買う窓口の高さについて。

5班 車いす体験をすることで、日常生活の不便な点を調査し、改善方法を考える。



階段で車いすをかかえてさがる



車いす専用駐車場が完備

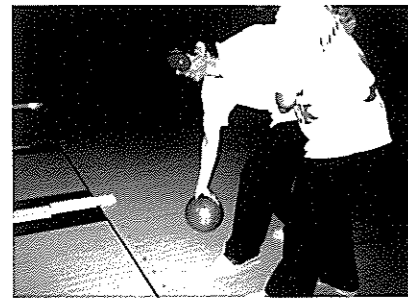
■空港のトイレの使いやすさ、空港全般的なバリアフリー度について。

■搭乗手続きの際の係員の対応およびカウンターの高さとの関係。

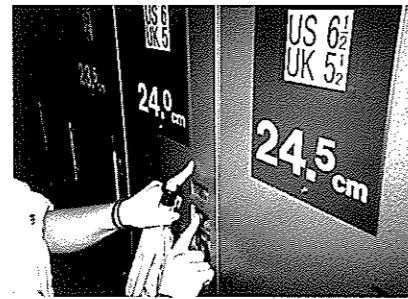
6班 身体障害者体験を通して、空港施設及び人の対応を調査し、改善点を見つけていく。



車いすの目線から見ると...



介助者に支えてもらってボウリング



コイン入れの高さはどうかな？

■遊園地では、視覚障害者のためにどのような工夫が施されているのか。視覚障害者がボウリングをするにあたっての介助方法。キッズレーンが利用できるかどうか。

7班 視覚障害者の目線で、余暇活動を体験し、問題点を探し出す。

■繁華街である天文館で点字ブロックはどのように設置されているか。■盲導犬の役目、誘導法は実際にどう行うのか。

8班 障害者体験を通して、障害者にとって住みやすいまちづくりを考える。



少しの出っ張りも白杖にかかる

■さらに、みんなにやさしいまちづくりを

今回はこうした計画に基づいてまちかど探検が行われました。障害者の視点でみると、まだまだ気付かないチェック項目があるかもしれません。まちかど探検を行った学生さんの中からは、「車いすを使っていると障害者だとわかるのに、まわりの人はほとんど無関心というか反応が冷ややかなんです。」「ハード面のバリアフリーだけでなく、心のバリアフリーも進まない」といった声も寄せられました。こうした体験および結果を活かし、みんなにやさしいまちづくりを進めていきたいですね。

目的も行き先も決まったから、さあ！まちかど探検というわけにはいきません。行き先で何をどのように調査するかという視点（具体的な調査項目）を決めなければなりません。そして、この視点をメンバー全員で確認しておきます。今回、探検団は視点を次のように設定しました。



バス停と歩道の段差が

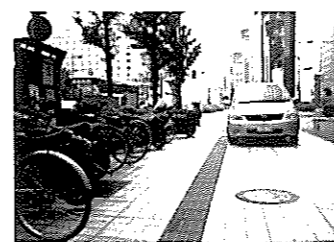
1班 動物公園の身体障害者用トイレは何ヶ所設置されているか。広さは適しているか。動物を見る柵の高さは適当か。売店のカウンターの高さはどうか。バス停から入口までの道のり、入口の広さ、段差はどうか。職員の対応はどうか。また、緊急時の連絡対応のしかたはどうか。

2班 車いす体験を通して、障害者が感じる不満や要望を探し出す。



トイレの使い勝手はどうか？

■公共の交通機関は、車いす使用者に対してどの程度使いやすいか。■街を歩く時、段差は車いすにどれだけ影響を与えるか。■ノンステップバスと普通のバスでどれくらい差があるか。■混雑しているデパート内で、車いすはどれだけ動きの制限を受けるか。■職員の対応はどうか。



歩道に駐車中のクルマ

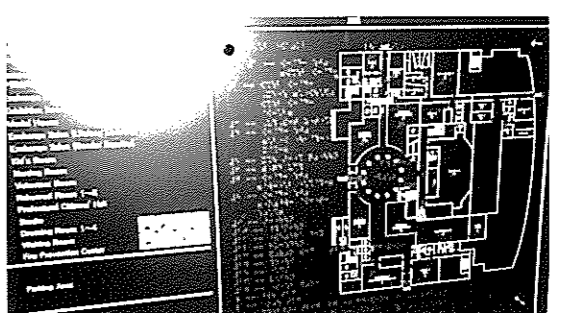
■信号機や建物など、どの点を改善すれば、障害者がもっと外出しやすくなるのか。■アーケード内の人ごみや店内で、どのような不便さがあるか。■交通機関における乗降のしやすさおよび停車位置をチェックする。

3班 盲導犬（聴覚障害・弱視）の体験を通して交通機関利用の際の不便な点、改善点を考える。



点字ブロックの上に自転車か...

4班 視覚障害者体験を通して、公共施設、店舗などの改善点を考える。



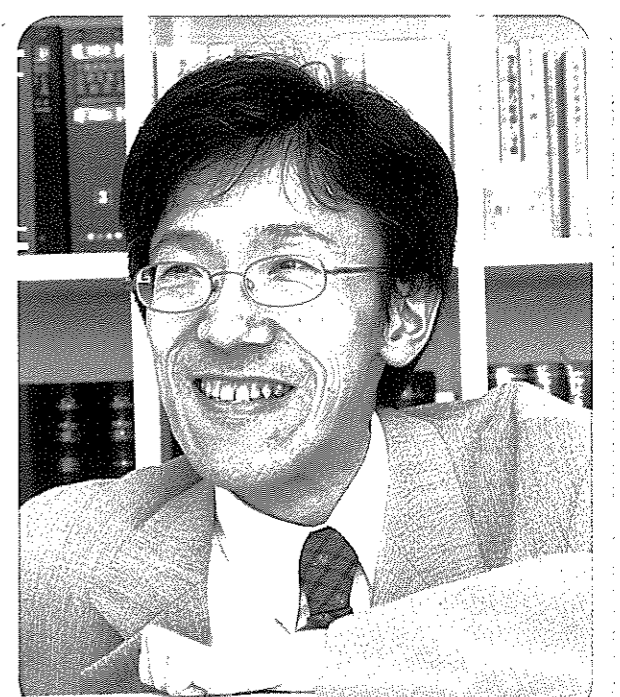
点字付の案内板

■実際に盲導犬を使用されている視覚障害者から、問題点を聞いてもらい、そうした問題点を実際に体験してみる。■一人が目かくし、もう一人が介助役で交通量の多い交差点の横断を体験。■天文館のバス停における行き先案内放送の聞き取り、および停車位置を調べる。

ありば ヒューマン ドキュメント

不便でも、
いろんな所へ
出て行こう！

のむら ひろし [野村 浩志さん]



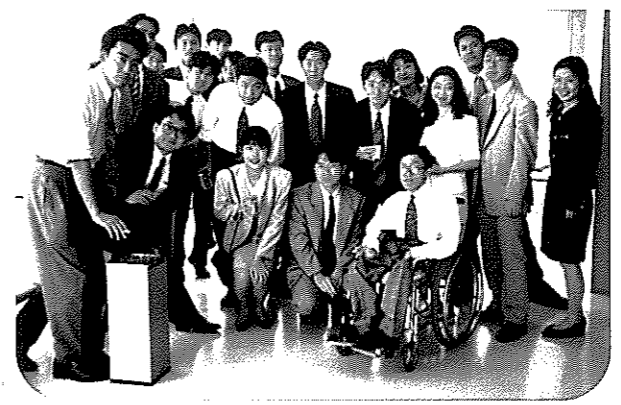
どうせ資格を取るなら
希少価値のある弁護士
資格を。

「健常者でしたら、地に足が着かない」といふことでしようが、私の場合は車いすですから、ダイヤが地面に着かない状態でしょうね。」と弁護士野村浩志さんは、最初に法廷に立った時の感想を笑いながら「う語ってくれた。弁護士歴八年、民事・刑事を問わずいろいろな司法の場で活躍されている。三歳の時に首の神経を痛めて車いす生活を余儀なくされる。小学校の五

年生までは普通の小学校へ通い、六年生から高校まで養護学校へ。楽天的な性格で、ハンデがあることに嫌気がさしたこともなく、いじめられたという記憶もないとか。将来なにか資格を取りたいという希望があつて、鹿児島大学法文学部法律学科へ入学。四年間の大学生活の中で、どうせ資格を取るなら希少価値のあるものかと思ひ、司法試験に挑戦した。十回の挑戦で合格。そして、司法修習生時代からお世話になつてゐる感元法律事務所へ。

弁護士だからといって
すべての法律に精通
しているわけではない。

「裁判沙汰になつてゐる土地の境界を見に行く時に、車いすでは中に入れないといふたようなこともたまにはありますが、仕事を進めていく上で障害がハンデになることはまずありませんね。そうした苦労よりも殺人事件などで弁護する際、人の命が関わつてゐることなので、法律的なむずかしさだけではなく被害者の気持ちになつて仕事をすすめていくことの方がずっと気が重いものです。」と野村さんは語る。我々は、弁



司法修習生時代の野村さん

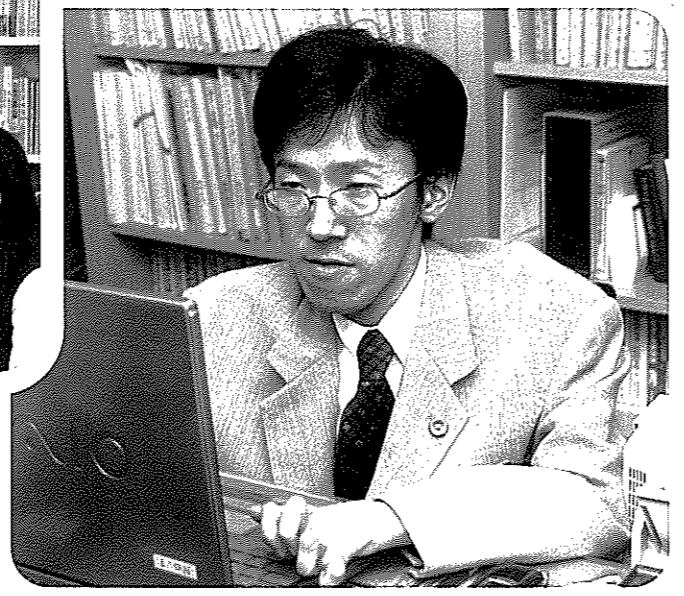
障害者の視点を 生かせる活動を模索中。

また、民事・刑事の裁判を問わず、客観的に見た場合の利益と依頼者の利益が致しないことも多々あるらしい。感情的なものや経済的な利益などいろいろな要素がからまつてくる。そうした時に、被害者の気持ちだけに乗つて、「そうですね、そうですね」と言ひおけば楽かもしれないが、それは法の専門家としては失格と野村さんは手厳しく。「どんな職業もそうではないが、十一年くらいは必死でがんばらないと、弁護士としての自信は持てないと思ひますね。」

バリアフリー社会をつくるために、ハードソフトの両面でいろいろな知恵や工夫がもつてまれるようになった。しかし、野村さんの目から見える鹿児島は「他県の事例とかそんなに数多く見たわけではないが、鹿児島はまだまだ改革して行く点はたくさんあると思ひます。段差があるところにスロープをつけてあるもの、その位置が適当かどうか、あるいは本当に使いやすい形になつてゐるかどうかなど、細かく見ていく必要がある問題点があるかな。」と野村さん



あたりの柔らかさが身上的野村さん



パソコンはじめてIT関係に強い

障害があることは 不便だけれど、 どんどん前に出ていこう。



ボランティアサークルの活動にも熱心

んは、「鹿児島ボランティアネットワーク」というサークルに所属し、障害者とボランティアを結び活動を行っている。また、全国の司法の場で活躍している車いす使用者のネットワークをつくり、障害をもつ人の視点を生かせる活動を模索中だ。そして、障害者に対してはいろいろな不便だけれど、とどん前へ出て行くことが必要と説く。人と仲良くつきあひ、しかし道理に外れたことには反対する、という意味合いの「和して同せず」。野村さんのモットーである。